



様式第4号（第7条関係）

令和6年6月28日

東かがわ市議会議長
渡邊 堅次様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)
氏名 淀 紀清

行政視察等報告書

1	日 時	令和6年5月27日～28日	
2	参加者	田中久司、工藤潔香、渡邊堅次、山口大輔、淀紀清、小松千樹	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		議会広報について	東京都あきる野市
		トキワ荘マンガミュージアムについて	東京都豊島区
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照 (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	82,490円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

視察研修報告書

東京都あきる野市 議会広報について
東京都豊島区 トキワ荘マンガミュージアムについて
埼玉県草加市 「そうかリノベーションまちづくり」について

令和6年5月27日~28日

東かがわ市議会議員 淀紀清

東京都あきる野市 議会広報について

日程 令和6年5月27日
視察先 あきる野市役所

【研修のねらい】

市民の皆さんに議会により多くの関心を持っていただくために、より良いものを作り手に取ってもらう必要がある。わかりやすく、読みたくなる議会だより作成の参考とするため視察をおこなった。

【概要】

- ・議会広報のリニューアル 「ギカイの時間」ができるまで

◆リニューアル決定までの経緯

平成23年10月～平成24年5月 全10回の研究会を開催

- ・市民アンケート実施

市役所入口に10種類の広報紙を並べ『何番の冊子を手に取って見たいですか?』と張り出す。

あきる野市の議会広報は4パーセントしか選ばれず

- ・内容検討

「手に取ってもらえる表紙作り」

「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」

先進事例などを元に編集委員会へ提案

↓
代表者会議へ提案

↓
リニューアル決定

平成25年第70号発行

◆検討内容

①興味を引く特集と表紙 (ターゲット決め)

号ごとにターゲットを変更

時間をかけて全ターゲットを獲得

<地域のテーマ>

- ・地域で子どもを育てる人
- ・多胎児を育てる親
- ・キッチンカーで販売する人 など

<取材方法>

- ・委員が対象者を人選する
- ・委員が取材の対応を行う

2人1組 議会事務局→カメラマン、場所のセッティング、文字起こしなど

<表紙＝特集>

リンクさせる

- ・カラー
- ・断切り
- ・原則1人写真

<タイトル>

リニューアル前：あきる野市議会だより

リニューアル後：ギカイの時間

生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしいという意味を込めて

②読みやすさ

- ・動線
- ・ホワイトスペース
- ・統一感

③裏表紙

- ・小学生が夢を語るコーナー

第2の顔とも言えるので柔らかい印象になるように気をつけ、議員が取材を行う

- ・スケジュールや啓発的な記事の掲載

④議案審議・一般質問

- ・行政用語を「通じる言葉」に
- ・知らせたいことと知りたいことの差
- ・読んで欲しい量と読める量の差

ピックアップ方式に変更（基本3つ）

分かりやすい文章に置き換え、写真付きで説明

◆効果・課題

- ・アンケートを実施し、「リニューアル後がいい」と答えた人

170人/200人 平成25年4月19日実施

- ・継続と進化

コンセプトを守る
4年に1度の見直し検討
・配布方法
市民への配布義務
農協、駅、金融機関、個別に届けるなど

【研修の様子】



【まとめ】

本市の議会だよりもどのくらいの方が手に取ってくれているのか、どのような評価をもっているのかアンケート調査等で調査研究していきたいと感じた。カラー、余白の使い方、写真の有無が読みやすさにつながっていて、堅苦しく感じず身近に感じた。内容や表紙、タイトルを大幅に変更することは難しいことなのかもしれないが、議員ひとりひとりが取材に行くなど、ものすごく市民への還元として向き合っているのだと伝わってきた。
議会広報広聴特別委員会委員になる事があれば、ギカイの時間を参考にするなど、読みやすさや手に取ってもらいやすさを重視した議会広報に努めたいと思った。

東京都豊島区 トキワ荘マンガミュージアム

日程 令和6年5月28日
視察先 豊島区立トキワ荘マンガミュージアム

【研修のねらい】

漫画文化に関する調査研究及び、企画展などの取組、周辺地域との連携の仕方などについて、本市の観光事業への参考にするため研修を行った。

【概要】

◆マンガの聖地「トキワ荘」
昭和27年 棟上げ
昭和28年～36年 手塚治虫など多くの漫画家が居住・活動
昭和57年 老朽化のため、解体

◆まちづくりの歩み

平成11年 仮称トキワ荘記念館建設の陳情
平成20年 トキワ荘記念碑設置実行委員会が発足
平成23年 トキワ荘通り協働プロジェクト協議会が発足
トキワ荘協働プロジェクトの活動
アートイベント『夢の虹イベント』
情報誌の発行など

◆トキワ荘再現に向けた検討

平成28年7月7日 ミュージアム整備構想を発表
学識経験者、マンガ、アニメ関係団体、地域団体などの協力のもと、検討のための会議体を開催

↓

令和2年7月7日
トキワ荘マンガミュージアム開館

◆来館者数：163,383人（令和5年度末時点累計）

◆年三四回程度、特別企画展の開催
「よつばと！原画展」が21,217人の来場者数で大変人気であった。

◆空き店舗活用・創業支援により民間施設も開設

- ・コマワリキッチン
- 空き家を活用したシェアキッチン
- ・トキワ荘マンガミュージアムサロン
- 新たなマンガ文化の発信・交流スペース

【研修の様子】



【まとめ】

外国人観光客、学生たちが見学に訪れており、サブカルチャーの文化は国境や時代を越えて人気であると感じた。周辺住民の意見には苦情はなく協力的な姿勢であるとお聞きした。聖地巡礼につなげ、スタンプラリーやガイドマップを通じてマンガミュージアムだけではなく、周辺一帯が盛り上がるような仕組み作りがなされていた。本市においても古いまち並みを活用したプロジェクトや、サブカルチャー文化の活性化などにつなげていきたい。

埼玉県草加市 「そうかリノベーションまちづくりについて」

日程 令和6年5月28日
視察先 草加市役所

【研修のねらい】

本市の商店街などの活力の低下が進む中、にぎわいの創出に向けた空き店舗の有効活用が必要となっている。空き家・空き店舗の利活用の調査研究をテーマに先進自治体の取組の研修をおこなう。

【概要】

◆草加市の都市経営課題

- ・市民間、世代間、市民と学生におけるコミュニティの不足
- ・公共不動産の利活用の必要性
- ・都市型産業の不足
- ・寝に帰るだけのまち
- ・多くの人が東京へ稼ぎに行く
- ・市内で買い物をしない
- ・市内でお金が循環しない

↓
域内経済循環を加速させるために、「地域資源を育てて、稼ぐ」
地域密着型ビジネスの担い手を育てたい

◆公民連携まちづくり

地域が抱える課題を行政と民間がそれぞれ「志」と「責任・権限」をもち適切な役割分担をしながら、両者が対等な立場で連携して解決するとともに、
公共サービスの受益を最大化すること

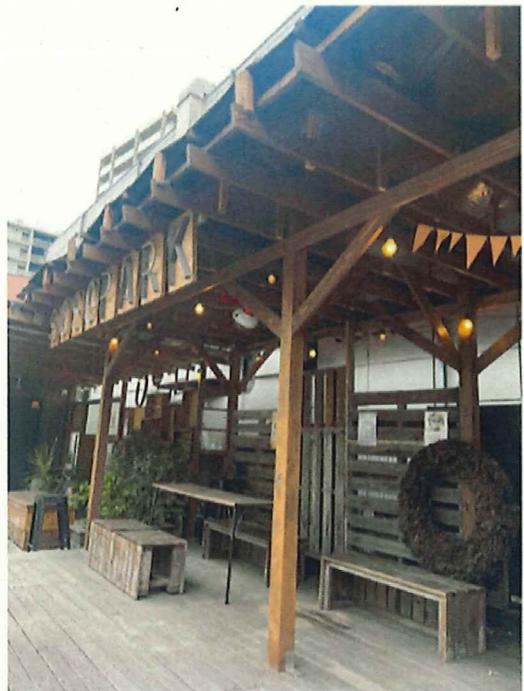
↓
「顔の見える経済循環」の「ハブ」を産み育てる

↓
最適な方法＝リノベーションまちづくり
できる限り補助金に頼らず事業化する。

◆担い手を育て、変化のトリガーをまちに放つ

市内外から集まった受講生たちがチームを組み、まちの未来を考える。
地域経営課題の解決につながるビジネスプランを練り上げ、最終日には不動産オーナーに提案し、打ち合わせを重ね、提案を元に事業化を目指す。
たくさんの飲食店、雑貨屋などが今も営業している。

【研修の様子】



【まとめ】

補助金に頼らない、民間主導によるまちづくりの考え方や空き店舗・空き家の利活用方法についてはまちづくりの展開を考える上で参考になった。

かつて賑わっていたと言われているような本市の商店街やお店なども賑わいを取り戻して欲しいと考える。また新たに起業がしたいと思うような方を巻き込んで市がハシゴを渡してあげるような環境作りをしていければ、活性化にもつながると考えた。